

敬老乗車証守ろう！ 市民の交通をもっと便利に 市民集会

迫る！
9・19集会



○9月19日(金) 13:30開場 14:00開会
15:30頃閉会予定 パレード出発15:40

○京都教育文化センター・ホール

集会終了後、9月市会の本会議が行われている市役所前で、アピール行動を行います。

敬老乗車証改悪をストップさせた名古屋から本谷純子さんが。そして、KBS京都ラジオでおなじみの早川一光さんから、激励と連帯のあいさつをしていただきます。

敬老乗車証制度とは

「高齢者の社会参加を支援し、もって高齢者の福祉の増進に寄与する」ことを目的に、1973年11月から、70歳以上の市民に市バス・地下鉄等を自由に乗車することのできる敬老乗車証が交付されている。9年前から5段階の所得に応じて0円から1万5千円までの負担金制を導入。

京都市が大改悪を検討中

負担を応能負担から応益負担＝「利用頻度」に応じて負担へと大転換。何回分かの無料乗車券がなくなれば、乗るたびに100円程度払わなければならないような制度を検討しています。

署名1万3千筆を超える

お盆明けの8月19日、連絡会は京都市長あてに第4回目の署名提出を行いました。京都市からは保健医療介護担当局長はじめ担当者ら4人が対応しました。

長田会長から第4次分として4452筆の思いのこもった署名を提出。参加者から「なぜ敬老乗車証の改悪をしたら困るのか」るる訴えました。当局担当者からは「制度を存続するため」「利用者をさらに増やすため」など、従来からの説明にとどまりました。また、改悪の前提となる敬老乗車証のICカード化に向けた調査報告書は来年3月までにまとめるとし、制度変更には他都市の例をみれば、少なくとも2年はおかかっているなどと説明しました。

話のやりとりでは、応能負担から応益負担へと制度を根本的に変え、しかも負担を大幅に増やす方針にもとづいて進めていく姿勢しか感じられませんでした。

「少なくとも改悪しないでほしい」という市民の願いに応えるため、9月19日に迫った市民集会をたくさんの参加者で成功させましょう。



連絡先 (共同事務局)

「敬老乗車証守ろう！連絡会」(自治体要求連絡会気付) Ⅱ・Fax 075-211-1161
全日本年金者組合京都府本部 Ⅱ075-761-3213 Fax075-761-3214